

要 旨

本研究は、説明的文章の学習において、身に付けた力を効果的に活用させる言語活動を通して、確かに読み、生き生きと表現する児童を育成する指導の在り方を探るものである。

言語活動を支え充実させるための手立てとして、ワークシートを開発し、ワークシートを活用した学習活動を展開した。学習の見通しをもたせるワークシートを活用することで、児童は主体的に学習するようになった。また、思考を整理するワークシートを活用することで、読みを深めたり、学んだことを活用しながら表現したりできるようになってきた。

〈キーワード〉 ①言語活動 ②ワークシート ③説明的文章

1 研究の目標

確かに読み、生き生きと表現する児童を育成するために、説明的文章の学習において、身に付けた力を効果的に活用させる言語活動を取り入れた授業の在り方を探る。

2 目標設定の理由

新小学校学習指導要領「総則」では、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、「基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」¹⁾と示されている。これを受けて国語科では、生活に生きる言語能力や他教科・他領域に通用する言語能力の育成が強調され、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域の内容に言語活動例が具体的に位置付けられた。言語活動を通して指導事項の知識や技能を身に付けることが一層重視されたのである。

県内の児童の学力状況としては、平成20年度の全国学力・学習状況調査の結果では、文章の展開や組み立てを論理的にとらえたり言葉や叙述を根拠にししながら内容を整理する力が、また、平成20年度の佐賀県小・中学校学習状況調査の結果では、筆者の表現の工夫をとらえたり読み取った内容について自分なりの感想や意見をまとめたりする力が課題として指摘されている。

そこで、本研究では、説明的文章の学習において、確かに読み、習得した知識・技能を意識しながら生き生きと表現する児童の育成につながる効果的な学習の在り方について考える。その手立てとしては、まず、身に付けた力を活用させる言語活動を単元の中に明確に位置付け、「読むこと」を「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の領域と関連付けた効果的な学習過程を工夫する。そして、言語活動を支え充実させるためのワークシートを開発する。このワークシートは、学習の過程で「学びの道筋を明確にする学習計画書」「学習上参考となる知識資料」「自分の思考を整理する手引き」「思考活動の助けとなる表現モデル」等といった様々な形で学習活動に大きな役割を果たすと考える。

以上のように、習得した知識・技能を活用する言語活動を単元に配置し、ワークシートを活用した指導を工夫すれば、児童は主体的に学び、確かに読み、生き生きと表現することができるであろうと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

説明的文章の学習において、学びの道筋を明確にしたり思考を整理したりするワークシートを活用した指導を工夫することで、確かに読み、生き生きと表現する児童を育成することができるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 小学校学習指導要領解説国語編や文献等により、説明的な文章の学習における効果的な言語活動の位置付けについて理論研究を行う。
- (2) 説明的な文章の学習において、学びの道筋を明確にしたり思考を整理したりするワークシートの開発を行う。
- (3) 検証授業（第5学年「森林のおくりもの」5時間、「インスタント食品とわたしたちの生活」5時間）を行い、仮説について分析・考察を行う。

5 研究の実際

(1) 文献等による理論研究

佐藤は「指導者が必要な言語環境を整え、児童の言語活動の充実に努めることが重要である」²⁾と述べ、指導者が意図的に言語活動を位置付ける必要性を説いている。また古賀は、「基礎的・基本的な事項の習得や、その活用を通して『思考力・判断力・表現力』の育成、自己の考えの形成とその表現力が求められる現在において、学習者の学びを主体的にし活性化するためにワークシートを作成し授業で活用することは、今後指導者が取り組むべき課題の一つだ」³⁾と述べ、ワークシートを「①学習を構想したり振り返ったりする学習資料、②参考となる教材や知識を与える学習資料、③作業を通して学習を促進する学習資料」と整理し、指導目標を具現化するための中核となる「学習資料」として位置付けた考え方を提唱している。

これらのことから、確かに読み生き生きと表現する児童を育成するためには、単元に効果的な言語活動を位置付け、言語活動を充実させるためのワークシートを開発し、効果的に活用していくことが重要であると考えられる。

(2) 実践化への手立て

本研究では、確かに読み生き生きと表現する児童を育成するために、効果的な言語活動を位置付けた単元を構想する。そのためには、まず児童の実態から身に付けたい力（ねらい）を明確にする。そして、新学習指導要領に明記されている言語活動例を参考にしながら、ねらいに合った言語活動を選択し位置付ける。さらに、習得した力を活用しながら効果的に言語活動を行うためのワークシートを工夫し、学習活動に取り入れる。

ア 児童の実態分析

児童の実態を把握するために、検証授業①と検証授業②のそれぞれの前後で「国語に関する意識調査」及び「説明文の読みのテスト」を行い、その結果から分かったことを基に授業計画を立てたり、授業分析を行ったりする。

イ 言語活動を重視した学習過程

習得した知識・技能を活用しながら言語活動を充実させる学習過程を、図1のように明確にした。学習課題を設定し学習計画を立てる第1次、言語活動を行うために必要な基礎的・基本的な知識技能を教材文等で学ぶ第2次、学習した知識・技能を活用して思考・表現する第3次、学習の成果を交流し身に付け力を振り返る第4次。この流れを基に、目指すねらいと教材の特性、そして、主たる言語活動を効果的に組み合わせた単元構想を考える。

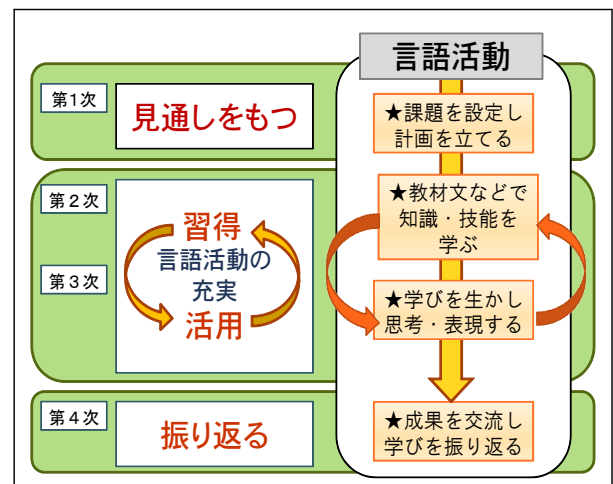


図1 言語活動を位置付けた学習過程

この流れを基に、目指すねらいと教材の特性、そして、主たる言語活動を効果的に組み合わせた単元構想を考える。

ウ 言語活動を充実させるワークシートの分類及び位置付け

ワークシートを表1のように整理して2つに分類し、図2のように学習活動に位置付けた。

『Ⅰ 学びの道筋を明確にするワークシート』は、学習の見通しをもつための「学習計画表」や「振り返り表」で、単元の導入や毎時間の振り返りの場面で使用する。また、『Ⅱ 思考を整理するワークシート』は、児童の課題解決を支える「手引き」「参考知識」「表現モデル」「補助資料」を取り入れたワークシートや「作業型のワークシート」で、教材を読み取る場面や自分の考えを表現する場面で児童の活動を促すものとして積極的に活用する。「手引き」は思考を整理する手立てとして分類しているが、学習活動の手順を示す場合も多く、学びの道筋を明確にする手立てにもなり得る。ワークシートのⅠとⅡは、相互に関連性がある。

表1 ワークシートの分類

Ⅰ 学びの道筋を明確にするワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもった学習のための「学習計画表」 学びを意識し次のステップとなる「振り返り表」
Ⅱ 思考を整理するワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 学習の方法を示し、一人学びを支える「手引き」 思考を整理する「作業型ワークシート」 思考や表現を促進する「参考資料」「表現モデル」 読みを深め、自分の考えを確かにする「補助資料」

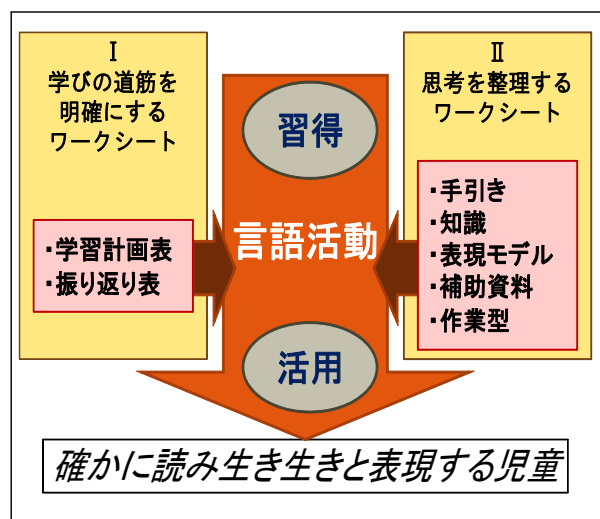


図2 言語活動へのワークシートの位置付け

(3) 授業の実際

ア 検証授業①「森林のおくりもの」(東京書籍5年下)

単元 「筆者の工夫を取り入れながら調べたことを意見文にまとめよう」

(ア) 児童の実態と指導のねらい

検証授業①を行う前に、「説明文の読みのテスト」と「国語についての意識調査」を行った。事前の読みのテストの結果から、「段落の構成を読み取る力」「事実と意見を読み取る力」「自分の考えを表現する力」に課題があることが分かった。また、意識調査では、「感じたことや考えたことを書く学習」を好む児童は24人中2人という結果で、多くの児童が自分の考えを表現することに苦手意識をもっていることが分かった。

そこで、この単元では、文章の構成に注意し、事実と意見を区別しながら読み取ったり書いたりする力を身に付けさせるとともに、表現するよさを感じさせ自信をもたせたいと考えた。

教材「森林のおくりもの」は、森林の恵みのすばらしさとともにつけがえのない遺産への感謝や林業の尊さを訴える説明文であり、題名の工夫や事例の挙げ方、問題提示や呼び掛け、強調表現や擬人法など、様々な述べ方の工夫が見られる。そこで、学習の展開としては、教材文を使って意見文を書くときの工夫について学ばせた後、その学習を生かして調べたことを意見文に書かせるようにした。そして、書き上げた意見文を基に互いの考えを交流し合う場として、クラスの友達と伝え合う「ポスターセッション」を設定した。

(イ) ワークシートを活用した指導の実際

a 学びの道筋を明確にするワークシート

初発の感想から、学習課題「筆者の工夫を取り入れながら調べたことを意見文にまとめよう」を設定した後、課題解決に必要な学習を話し合い、計画を立てさせた。決定した計画を

ワークシートにまとめ(図3), 学習の見通しをもたせた。ワークシートは、「意見文の書き方を学ぶために教材文を読む段階」と「学んだ工夫を生かして意見文を書く段階」の欄を作り, 学びを意識して言語活動ができるようにした。

授業後の児童の感想からは, 学習意欲の高まりやゴールまでの学習を見通している様子が伺えた(図4)。また, その後も単元全体を通して計画的に学習することができ, 児童に主体性をもたせるという点で有効であったと考える。しかし, 振り返り表を毎時間のワークシートの最後に位置付けていたため, その時間だけの振り返りにとどまり, 次時まで見通した反省ができにくかった。学習全体の中での振り返りができるよう, もっと機能的な計画表に改善する必要があると感じた。

b 思考を整理するワークシート

「読み取る段階」においては, 手引きを基に作業しながら読みを確かにしていくワークシートを, 「表現する段階」においては, 調べたことを整理し構成しながら意見文にまとめる作業型ワークシートを作成し使用した。

(a) 読みを確かにする作業型ワークシート

第2次の教材文での読みの学習では, 図5のワークシートを使いながら, 筆者の工夫を読み取らせた。木材としてのおくりものを付せんに書き出し, カテゴリーに分けて整理させた。児童は, 木の名前や使われ方の例に注目しながら, 木材がどのようなものに利用されているか内容を確か読み取ることができた。この作業を通して, さらに児童は筆者が多くの具体例を提示しながら内容を分かりやすく伝えている工夫に気付くことができた。

(b) 要旨をとらえさせるワークシート

第8次の要旨を読み取る学習では, 次頁図6のワークシートを使って, 手引きにそって要旨を読み取りまとめさせた。手引きには, これまでの学習で学んだ要旨をとらえる際のポイントを整理して示した。児童は, 手引きを参考に一人学びを進めた。それぞれに結論部分(37段落

図3 児童の学習計画表

図4 学習計画後の児童の感想

図5 作業型ワークシートと手引き

～39段落)を読み、文末表現を手掛かりに事例と意見を区別しながら、筆者の言いたいことが表現されている文章を見つけて線を引き、理由を書き込んだ。そして、選んだ文章と理由について全体で話し合う中で、筆者はどのような事実を事例として挙げ、どのような主張をしているのかを確かに読み取ることができた。さらに、話し合いで読み深めたことを生かし、選んだ文章をつなげながら要旨をまとめた。中には、文と文をどうつないだらいいのか迷っている児童もいたが、要旨を紹介し合う中で、友達の文章のまとめ方にヒントを得てつなぐことができた。

図6 要旨をとらえさせるワークシート

(c) 調べたことを整理し構成させるワークシート

第10・11次では、自分のテーマに沿って調べ得た情報を整理し、構成を工夫し、意見文に書く活動を行った。情報となる図書や環境白書などの資料は、教師側で準備しコーナーを設けていつでも調べられるようにした。児童は、テーマに合う図書や資料を選んで読み、図7の情報カードに分かったことを書き出した。この情報カードを切り離し、身近な例から気付きにくい例の順に書くという教材文の構成を生かしてワークシート(図8)に並べ替えた。そして、メモとメモをつなぐために、接続語や話を切り返す問い掛けの文や自分の意見などを付け加え、さらに「本論」に見合った「序論」「結論」をまとめ、意見文を書き上げることができた。特に、長い文章を書くことが苦手な児童にとっては、スモールステップで作業のできるワークシートは、有効であったと考える。

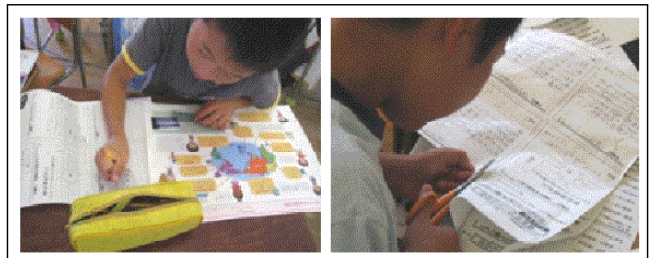


写真1 情報を取り出し整理する児童の様子

図7 情報カード

図8 情報カードを並べ、本論の構成を考えるワークシート

(ウ) 児童の様子と考察

すべての児童が、調べたことを基に自分なりの主張を述べた意見文を書くことができた(図9)。書き上げた文章には、教材文で学んだ文章構成の工夫や読み手を引き付ける問い掛け文、接続語などの工夫が見られた。ワークシートを活用しながら学習していくことで無理なく意見文を仕上げるのができたのではないかと考える。

しかし、意見文を書き上げる過程で、一人学びの時間が多くなり、作業の進度に個人差が出てしまった。一人で学ぶ時間を保障しながらも、推敲の段階では、グループで学び合う時間も取り入れるなど学習形態の工夫や手立てが必要であった。

授業後の児童の感想には、書き上げた喜びと充実感を表す記述や、学習したことや筆者に目を向けた記述などが多く見られた(図10)。

また、検証授業①を終えて行った説明文の読みのテストでは、課題であった「構成を読み取る力」「筆者の考えを読み取る力」「自分の考えを表現する力」とともに伸びが見られた(図11)。

しかし、「国語に関する意識調査」では、「自分の考えを書いたり話したりするときに構成を意識したり、相手に分かりやすいように工夫したりしている」と答えた児童は、半数にとどまった。そこで、更に構成や表現の工夫を意識させる学習活動を繰り返しながら、意識を高め学びを日常的に活用できる力へと伸ばしていく必要性を感じた。

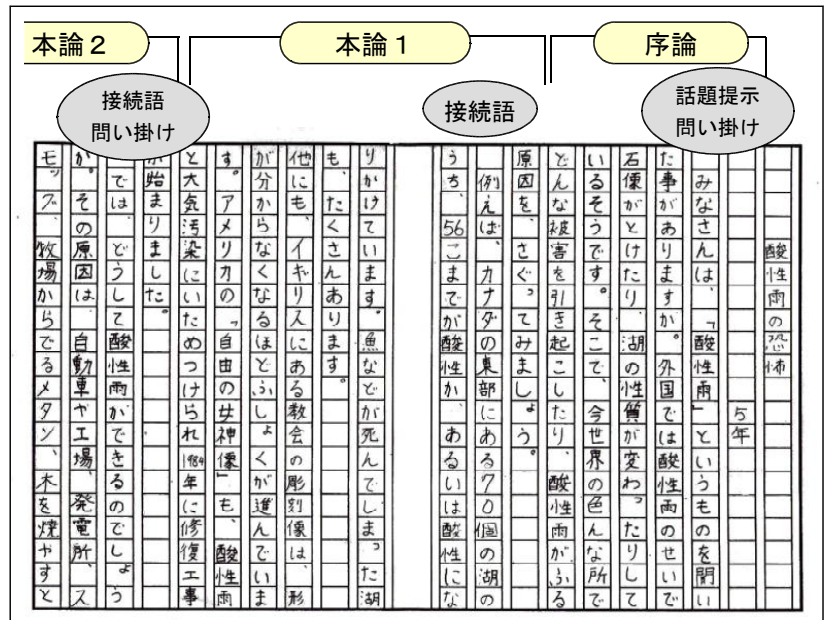


図9 児童が書いた意見文

- ・ 作者の工夫を生かして意見文が書けたのがうれしい。
- ・ みんなで課題が解決できてよかった。
- ・ 富山さんが読み手のことを考えながら工夫していることがわかった。
- ・ 「序論」「本論」「結論」にどんなことを書くかがわかった。

図10 授業後の児童の感想

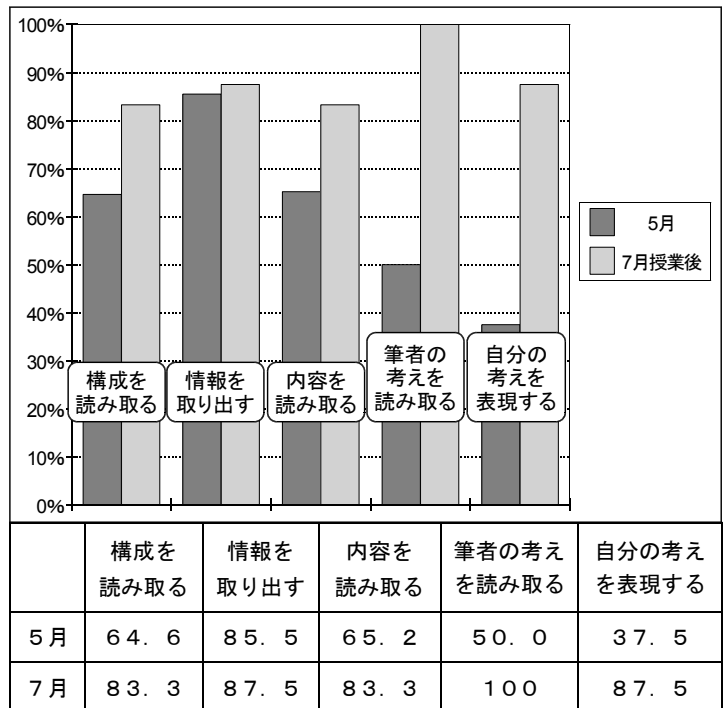


図11 読みのテスト結果

イ 検証授業②「インスタント食品とわたしたちの生活」(東京書籍5年下)
単元 「ディベートにチャレンジ!話し合い名人になろう」

(7) 児童の実態と指導のねらい

検証授業①では、調べたことを基に自分なりの考えをまとめる学習を行った。児童は、授業の中では、意見文の構成や述べ方を工夫して書くことを意識できるようになってきた。しかし、中には事実と自分の意見を混同する児童や、調べた情報がテーマに合うのか判断できにくい児童、情報を読み解き効果的に自分の意見と結び付けることが十分でない児童もいた。また、授業の中では構成や工夫を意識できても生活の中では学習した力を活用できず、まだまだ苦手意識が見受けられた。

そこで、検証授業②では、このような課題を踏まえ、身近な生活の中から論題を決め、調べたことを基に根拠と意見を区別しながら、より説得力のある意見を述べる力を身に付けることをねらいとした単元を構想した。教材文「インスタント食品とわたしたちの生活」は、筆者が、事実と自分の考えを区別しながらインスタント食品の良い点と問題点の両面を挙げ、それぞれの理由や根拠を明確にして論を展開している文章である。教材文で読み取った情報を基に自分の考えとその根拠となる事例を明確にしながらいびートの練習（モデルディベート）を行い、ここで学んだ知識・技能を生かして、更に身近な生活を論題にディベートさせ、情報を読み取る力や説得力のある意見を述べる力を定着させたい。

(4) ワークシートを活用した指導の実際

a 学びの道筋を明確にするワークシート

検証授業①と同様、児童に主体的な学習をさせるために、学習課題について話し合い、学習計画を立てさせた。本実践では、ディベートのモデルとなるビデオを導入で見せ、普段行っている話し合いの仕方との違いから問題意識をもたせ、学習課題「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」を決定した。さらに、「話し合い名人になるためには」と投げ掛け、課題達成のためには、「話し合いの型」と「話し合いの技」を学ぶ必要性に気付かせ、学習計画を立てさせた。今回も、教材文で学ぶ「モデルディベート」と、その学びを生かして身近な生活を論題に行う「ディベート」を位置を位置付けた学習過程にした。さらに、計画表と振り返り表を一体化したワークシートを作成し、学びの足跡が一目で分かり、振り返りを次時の学習に生かせるようにした(図12)。

図12 学習計画と振り返り

児童はディベートという新しい話し合いの形に興味津々で、検証授業①以上に意欲をもって学習に望むことができた。

b 思考を整理するワークシート

「読み取る段階」においては、比べ読みしながら自分の考えを確かにしていく「補助資料」としてのワークシート(図13)を、「ディベートを行う段階」においては、思考を整理しながら自分の意見をまとめるワークシートや、見通しをもってディベートを進めるための手引き等

図13 自分の考えを確かにする補助資料

を作成し使用した。

(a) 自分の考えを確かにするための「補助資料」

教材文でインスタント食品の「良さ」と「問題点」、これらの根拠を基に筆者の主張を読みとった後、自作の補助資料（前頁図13）を使って、自分の考えを更に深める学習を行った。児童は、教材文と資料を比べて読むことを通して多様な考えがあることに気付き、筆者の主張と自分の考えを比べながら自分の考えを整理し、考えをより確かなものにする事ができた。また、アンケートの結果をグラフで表した資料を読むことを経験したことで、次時に情報を収集し分析する活動がスムーズに進んだ。

(b) 見通しをもってディベートを行うためのワークシート（手引き・司会進行表）

教材文と補助資料を情報として行うモデルディベートと、身近な生活を論題に行うディベートをする際、初めてディベートを経験する児童が見通しをもって安心して学習できるように、ディベートについての手引き（図14）や司会の進行表（図15）を作成した。児童は、手引きで役割を確認したり、進行表を見ながらディベートの流れを確認したりしながら準備を進める事ができた。

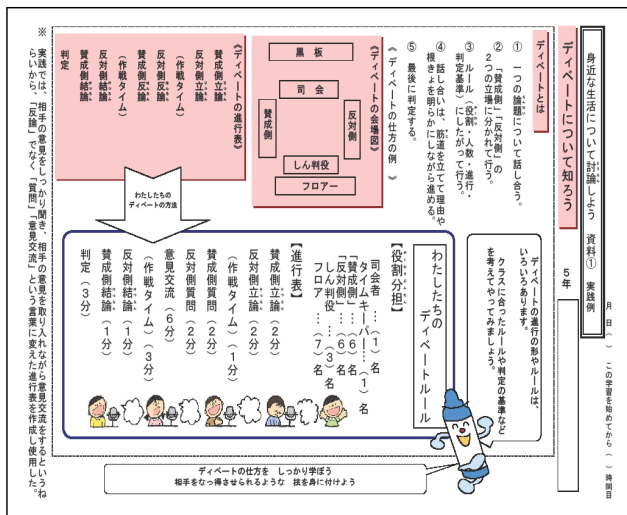


図14 ディベートの手引き

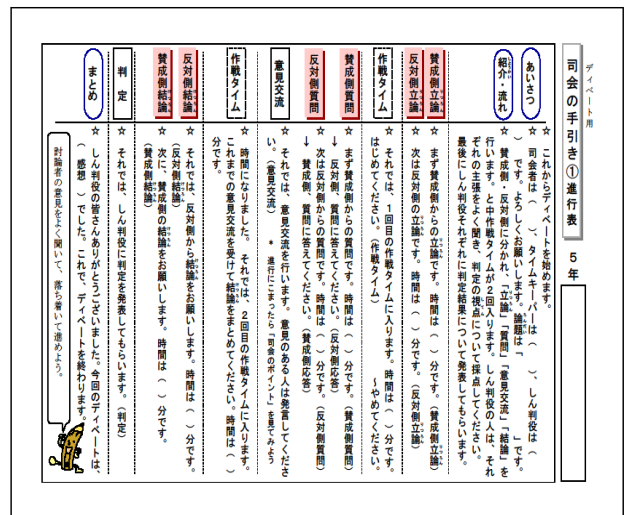


図15 ディベートの進行表

(c) 見通しをもって思考を整理するワークシート（作戦カード）

ディベートの準備においては、まず、論題に対するいろいろな考えとその理由について一人一人に考えさせた。そして、同じ立場の討論者でグループをつくり、情報を集め、その情報を解釈しながら立論を作らせた。このとき、ディベートの際に相手側からの質問や意見に対応できるように、作戦カード（図16）を準備し、質問を予想しその答えを考えさせておいた。同様に、相手側の立論を予想し、それに対する質問や意見も考えさせておいた。すると、児童は実際にディベートの中で、質問に対応できたり、自分たちの論を強調するために使ったりすることができた。作戦を考えておくことは、ディベートの流れを見通し、計画的な話し合いをさせるのに有効であった。

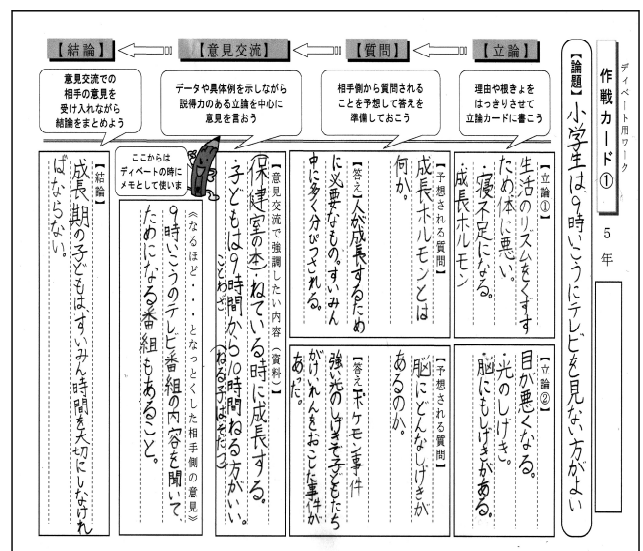


図16 作戦カード

(ウ) 児童の様子と考察

モデルディベートで練習を行った後、身近な生活を論題に学んだことを生かしてディベートを行った。論題は、「小学生は夜9時以降にテレビを見ない方がいい」と「宿題はなくすべきである」の二つにした。児童はモデルディベートでの経験を生かして、進んで情報を集めたり、話し合いの技を取り入れながら話そうと努力したりする姿が数多く見られた。また、自分の立場で調べた情報を活用しながら、相手からの質問や意見にも応答しようとしていた。図17から分かるように、根拠を明確にさせながら、生き生きと自分の考えを言おうとする態度が見られたのは、モデルディベートを振り返ってよりよい話し合いの技を学んだり、ワークシートを基にディベートの準備を計画的に進めたりしてきたことが効果的だったと考える。

論題「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がいい」のディベート

反対側： ぼくたちは、小学生でも9時以降のテレビは、見ていいと思います。「9時以降にどんなテレビを見ていますか」というアンケートをした結果、このような回答がありました。(アンケートのランキングを提示しながら) このように、9時以降にも、親子で楽しめる番組や役に立つ番組がたくさんあり、24人中21人の人が9時以降のテレビを見ています。だから、ぼくたちは、9時以降のテレビも見ていいと思います。以上です。

司会者： 反対側からの主張に対して、賛成側は意見はありますか？

賛成側： はい、確かにたくさんの方が見ているし、いい番組もたくさんあると思います。どうしても見たいときは、ビデオに録画して、別の日の昼間に見たらいいと思います。9時以降からテレビを見ると、睡眠不足になってしまいます。みなさんは、睡眠不足が体にどんな影響があるか知っていますか。こちらを見てください。(保健室の資料を提示) 子どもは、寝ている間に成長ホルモンが出ると言われています。しっかり睡眠をとらないと脳や体の成長にも悪い影響があると書いてあって、わたしは怖くなりました

9時以降に放映されるテレビ番組の種類や実際に見ている人数を根拠に主張している。

反対側の主張に対して、解決案を提示している。

賛成側の立場から、本で調べたことを根拠に9時以降はテレビを見ないで寝た方がいいと主張している。

図17 授業実践②(第12時)のディベートの様子(一部抜粋)

また、検証授業②の振り返りの感想(図18)には、学習の過程で自分たちの学びや成長に気付くことができた記述や、今後の課題についての記述が見られた。

<p>・ 自分の意見をたくさん言えてよかった。モデルディベートよりも本番の<u>ディベートの方が上手に言えてうれしかった。</u>ディベートで<u>学んだ意見の言い方をこれからも生かしていきたい。</u></p>	<p>・ ディベートは難しかったけど、立論や質問を考えたり、表やグラフを作ったりして楽しかった。今度やるときは、<u>質問されたらすぐに答えられるようにしたい</u>。そして、<u>資料や表をしっかりと使いたい。</u></p>	<p>・ ディベートまでの時間を大切にできたので、楽しかった。何週間かで<u>意見の言い方や質問の受け答えが上手になって、自分がこんなに成長できるとは思って</u>もみなかった。</p>	<p>・ ディベートはきちょうした。どのグループも調べた結果を<u>大きな資料にまとめていて、分かりやすかった。</u>ディベートという討論は、おもしろかった。みんな話し合い名人に近づけたと思う。</p>
--	--	---	--

(下線部は筆者、—— は自分の学びや成長を感じている記述、~~~ は自分の課題を明確にしている記述)

図18 ディベートの後の児童の感想

授業後に行った読みのテスト(次頁図19)では、「構成を読み取る力」「情報を取り出す力」「筆者の考えを読み取る力」については、検証授業①の後に行ったテストとほぼ変わらない安定した結果が見られた。また、「内容を読み取る力」が更に伸び、特に「自分の考えを表現する力」は、無回答がなく理由を明確にさせながら自分なりの意見を書くことができる児童がほとんどであった。

これは、今回の授業での経験で基本的な意見の書き方を理解した結果だと考える。また、「国語に関する意識調査」では、「感じたことや考えたことを書く学習」を好む児童も2人から8人に増え「感じたことや考えたことを話し合う学習」を好む児童も2人から9人に増えた。

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 道筋を明確にするワークシートは、児童の主体性や学力の定着を促した。「学習計画表」を作成し、活用することで、児童はゴールを見通し目的意識をもって主体的に学習することができた。また、教材文で学んだ力を意識しながら言語活動を行うことで、学びの充実感を感じるとともに、基礎的・基本的な知識技能をより定着させることができた。

イ 思考を整理するワークシートは、児童の確かな読みや表現を支えることが

できた。「手引き」に沿って思考を整理しながら文章の重要な点を的確に押えることで、確かな読みにつなげることができた。また「作業型のワークシート」を使い「表現モデル」を参考にスモールステップで学習することで、自分なりの考えを生き生きと表現することができた。

(2) 今後の課題

ア 学習計画表を振り返り表と組み合わせたことで、本時の反省を次時の学習に生かせるような形に改善した。しかし、次時を見通した評価が書けない児童も多かった。学習計画表をもっと機能的なものにするためには、毎時間のめあてや評価の観点をはっきり提示し、それらに照らし合わせて学習活動を軌道修正できるようにする工夫改善が必要である。

イ 意見文を書いたり情報を集めたり児童一人一人が活動をする際、作業が進まない児童が数人いた。「手引き」や「モデル」を更に充実させたり、児童同士の学び合いなどを取り入れるなど、支援を要する児童への手立てが必要である。

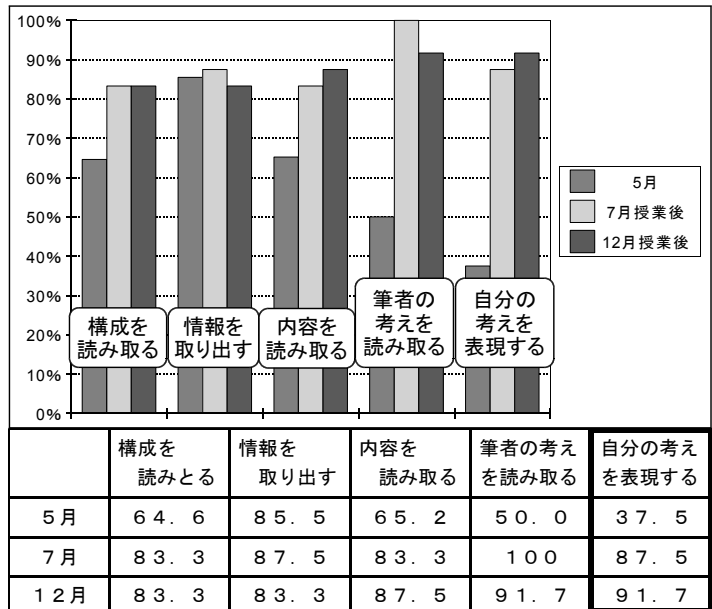


図19 授業の後の読みのテスト結果

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領』 2008年 東洋館出版社 p. 13
- 2) 佐藤 学 『月刊 指導と評価』 2009年 7月 図書文化 p. 21
- 3) 古賀 勝利 『月刊 国語教育研究』 2009年 9月 日本教育国語学会 p. 32

《参考文献》

- ・ 新しい国語教育を創造する会 『小学校 新学習指導要領の展開 国語科編』 2008年 明治図書
- ・ 佐賀県教育委員会 『平成20年度佐賀県小・中学校学習状況調査報告書』 2009年

《参考URL》

- ・ 佐賀県教育センター 『プロジェクト研究要項』 2009年
URL http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h21/01shou-koku/index.html (2010年 3月)